

小学三年生

森野 水きん

れいわ六年五月三十日

四月から小学三年生になった。

じいじが ゆめの話を書いてくれるのを まっていたら 自ゆうに 書くようにとのことだった。

じつは 自ゆうに書くのは とくいではない。

じいじが書いてくれる ゆめの話を読んで考えるほうが楽しい。

また ゆめの話を じいじに書いてもらいたい。

れいわ六年八月十六日

じいじが 自ゆうについて書いてくれた。

生まれてきた時から自ゆうに生活しているから あんぜんと同じで 空気のよように あって当たり前としか考えていなかった。

大ぜいの人のおかげで 自由でいられるのだね。

いろいろ考えると むずかしいけど 書いてみると すっきりするね。
ますます自ゆうになった気がする。

れいわ七年一月五日

じいじが オリンピックについて書いてくれた。

へんじを書かないうちに 年が明けてしまった。

原こうりょうとして じいじが たくさん お年玉をくれた。

ぼくも しょう来 どこかのオリンピックを 生で見たいな。

また日本でオリンピックが行われることになったら かんきやくが おうえんできるといいな。

その時は もっと へいわに なっていると いいな。

れいわ七年三月三十一日

じいじが マラソンについて書いてくれた。

さすがに マラソンが すきなだけあって 今でも じいじが ジョギング

しているのは すごいと思う。

どうしたら マラソンが 好きになれるのかな。

こんど じいじに教えてもらおう。

きつと じいじは ニコニコして教えてくれるだろう。